

令和6年度 学校自己評価システムシート(わせがく夢育高等学校【飯能本校】)

目指す学校像	本校の教育スローガン〔自由・個性・夢育〕を基幹にし、令和6年度は次のような学校を目指し、本校の特色を明確化していく。 (1) 生徒一人ひとり夢、人権及び個性がお互いに十分に尊重され、いつも楽しい雰囲気にあふれる学校。 (2) 生徒が卒業までに、自立して生活できるように、人としての基礎基本（各教科の基礎学力・基本的生活習慣・社会的人間性等）を身につける学校。 (3) 地域を理解し、地域に貢献し、地域に信頼される学校
--------	---

重 点 目 標	(1) 出席率の向上 (2) 退学者の減少 (3) 資格取得の奨励 (4) 進路決定率の向上 (5) 部活動の充実 (6) 本校(通信制課程)理解の促進 (7) 地域交流の促進
---------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 4名
事務局(教職員) 5名

学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標			年 度 評 価 (3月 17 日 現在)		
番号	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	皆勤者は年々増加傾向であり、一定の成果が見られている。全日型生徒の出席率向上に向けて今年度も職員会議の生徒状況報告を密に行い、センター長、教育相談室の適切な指導の下、数値目標を達成したい。	出席奨励の連携を積極的に行い、生徒面談・保護者面談を充実させる。	皆勤者を19名以上とする	皆勤者は29名であった。	A
	長期欠席を未然に防ぐため、必要に応じて家庭訪問を実施し、生徒の通学意欲を向上させる。	生徒状況調査で全日型生徒を20%未満とする	全日型で生徒状況調査対象者は32%であった。		
2	昨年度は人數の増加に伴い、様々な事情を抱えた生徒が増加している。引き続き学級担任のみならず、該当センター長、生徒指導部、教育相談室の協力のもと、退学者、転出者の減少に取り組んでいき、目標達成を図りたい。	生徒面談・保護者面談を充実し、生徒の学校不適応の行動を見逃さない。	退学者1名以下とする	退学者は0名であった。	A
	保護者との連携を強化し、常に適切な連絡を家庭と取り合う。	転出者を1名以下とする	転出者は1名であった。		
3	昨年度は各校舎積極的な検定受験の促しを行ったことから、受験者、合格者共に目標値を達成することができた。今年度も補習授業の中に検定対策を盛り込むなど、検定受験・合格への意識を高めていきたい。	生徒の学習意欲を高める検定の実施。	受験者数延べ96名	受験者数延べ65名であった。	A
	資格取得のための学習を提供する。	各種検定合格者延べ38名	各種検定合格者延べ51名であった。		
4	昨年度は比較的高い水準を保つことできた印象である。Marchレベルの合格者も昨年5名排出できているので、今年度も難関大対策に向けての補習や早稲田予備校との連携、スタディサプリの活用により、数値目標を達成したい。	卒業率を97%以上とする。	卒業率97%以上	卒業率100%であった。	B
	個々に応じたきめ細かな進路指導を行う。	進路決定率80%以上	進路決定率は97%であった。		
	早稲田予備校との連携を図る。	marchクラス以上現役合格延べ2名以上	marchクラス以上現役合格は延べ0名であった。		
5	昨年度はソフトテニス部が全国大会で3位入賞となつたことをはじめ、所沢キャンパスの開設もあり、部活動の加入者も大幅に増加。すべての項目で達成度5を得ることができた。今年度も同様の成果が得られるよう、新入生をはじめ、部活動への積極的な参加を促していく。	部活動の活性化に努め。生徒に充実感、達成感を持たせる。	全国大会での入賞1部以上	全国大会での入賞は2部であった。	A
	部活動を通し、教職員と生徒及び生徒相互の人間関係を深める。	学校評価アンケートで45%以上の同意	学校評価アンケートで47%が同意		
	部活動、同好会の加入者延べ数を70名とする。		加入者延べ数152名であった。		
6	昨年度、生徒募集は一丸となって募集に取り組んだ結果、達成度が非常に高い状況である。生徒募集会議も定期的に取り組んで情報交換を行った結果が出ているように感じる。インターネットの広報が比較的弱い傾向にあるため、今年度は各校舎意識をして数値目標を達成できるよう取り組んでいきたい。	全教職員が協力して、地域の中学校・高等学校の教職員との連携の強化を図る	訪問担当校(中高)を年2回以上すること	生徒在籍報告を100%実施した。	A
	本校(通信制課程)理解促進のための中学校・高等学校等訪問の強化、訪問中学約150校とする。	訪問中学約150校とする。	訪問中学校は166校であった。		
	学校行事・フェア・キャンパス行事等、様々な機会を通じて入学者が来校する機会を多く取り入れ、新入出願許可書の発行を60枚以上を下限とし、100枚以上する。また、2024年8月末までに60枚以上とする。	新入出願許可書発行数100枚以上(2024年8月末までに60枚以上)	新入出願許可書発行数は2024年8月末時点で60枚、2025年3月17日時点で112枚であった。		
7	わせがく夢育生150名。	在籍生徒数150名	在籍生徒数は159名であった。		A
	HP・SNSの充実を図る。各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上とする。	各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上	更新週1回以上達成。		
	地域の方からゲストティーチャーを招き、地域の特色を学ぶ学習活動・協働作業の充実を図る。	地域の方々との学習活動・協働作業を年間3回以上	地域の方々との学習活動・協働作業を7回実施。		
	学校行事や地域イベント等への相互参加を通じ、地域理解や交流を深める。	地域イベント参加等の地域交流を年間3回以上	地域イベント参加等の地域交流を3回実施。		

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令和7年3月17日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
中学校に馴染めなかった生徒が、貴校に入学してから非常に楽しそうに通っている姿を見て安心している。自信を取り戻せる環境があると感じる。	
家庭の事情は多種多様であり対応が難しいが、引き続き学校内連携のもと取り組んで欲しい。	
色々な検定の学びを支援している点や教師が積極的に受験を呼びかけている点がよい。	
大学入試において資格検定の合格は進路決定の後押しとなる。難関大学への合格ももちろん素晴らしいが、地元の大学へ進学する生徒がいることは、地域にとっても喜ばしい。	
全国大会での活躍は、学校全体の誇りであるため、引き続き生徒の満足度を高められるような活動を目指してほしい。	
活動内容を「学校だより」のような形で公民館への掲示や地域回覧板を活用して情報発信を検討してほしい。学校と地域との連携を深める非常に効果的な手段となる。	
特色ある取り組みや成果をアピールし、多くの方に知ってもらいたい。	
8月に大野崎玉県知事が学校を視察されたことは地域としてもビッグニュースである。教育活動に興味を持っていただき大変名誉である。地域住民として生徒たちの成長を間近で見られるのは嬉しい。農業体験で最初は自信がなさそうだった生徒が髪つきの頃には堂々としている姿を見て感動した。	

令和7年度 学校自己評価システムシート(わせがく夢育高等学校【飯能本校】)

目指す学校像	本校の教育スローガン〔自由・個性・夢育〕を基幹にし、令和7年度は次のような学校を目指し、本校の特色を明確化していく。 (1) 生徒一人ひとり夢、人権及び個性がお互いに十分に尊重され、いつも楽しい雰囲気にあふれる学校。 (2) 生徒が卒業までに、自立して生活できるように、人としての基礎基本(各教科の基礎学力・基本的生活習慣・社会的人間性等)を身につける学校。 (3) 地域を理解し、地域に貢献し、地域に信頼される学校
--------	---

重 点 目 標	(1) 出席率の向上 (2) 退学者の減少 (3) 資格取得の奨励 (4) 進路決定率の向上 (5) 部活動の充実 (6) 本校(通信制課程)理解の促進 (7) 地域交流の促進
---------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　名
事務局(教職員)　名

学 校 自 己 評 價					
年 度 目 標			年 度 評 價 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	皆勤者が一昨年度よりも大幅に増加し、日々の生徒対応・保護者対応の成果が現れている。出席率向上に向けて日々の職員会議での報告や生徒支援相談会を通じ、適切な指導の下、数理目標を達成したい。	出席奨励の連携を積極的に行い、生徒面談・保護者面談を充実させる。	皆勤者を16名以上とする		
	長期欠席を未然に防ぐため、必要に応じて家庭訪問を実施し、生徒の通学意欲を向上させる。	生徒状況調査で全日型生徒の長期欠席を20%未満とする			
2	近年の生徒数の増加に伴い、様々な事情を抱えた生徒が増加している。その中でも退学者について目標を達成することができた。引き続き学級担任のみならず、チーム学校として、退学者、転出者の減少に取り組んでいき、目標達成を図りたい。	生徒面談・保護者面談を充実し、生徒の学校不適応の行動を見逃さない。	退学者1名以下とする		
	保護者との連携を強化し、常に適切な連絡を家庭と取り合う。	転出者を1名以下とする			
3	昨年度は合格者の目標は達成できたが、受験者の目標は達成に少し及ばなかった。今年度も各校舎で検定対策授業を盛り込みつつ、検定実施日の張り紙を各教室に用意するなど、受験者、合格者共に増加できるように取り組んでいきたい。	生徒の学習意欲を高める検定の実施。	受検者数延べ114名		
	資格取得のための学習を提供する。	各種検定合格者延べ61名			
4	昨年度はすべての項目において高い水準となり、目標を達成することができた。進路指導部による定期的な進路研修会により、教員も高い意識のもと、進路指導にあたることができた。来年度も早稲田予備校とWISH個別指導教室との協力をより深め、marchクラス以上の現役合格者を更に増やしていきたい。	卒業率を97%以上とする。	卒業率97%以上		
	個々に応じたきめ細かな進路指導を行う。	進路決定率80%以上			
	早稲田予備校との連携を図る。	marchクラス以上現役合格者延べ2名以上			
5	昨年度も全国大会に出場し、入賞をする部活が2部あったことは非常に喜ばしい。その他部活動、同好会の参加者数は大幅に増加しており、すべての項目で目標を達成することができた。今年度も新入生への積極的な参加を促しつつ、満足度を高められるような活動を目指していきたい。	部活動の活性化に努め、生徒に充実感、達成感を持たせる。	全国大会での入賞1部以上		
	部活動を通し、教職員と生徒及び生徒相互の人間関係を深める。	学校評価アンケートで45%以上の同意			
	部活動、同好会の加入者延べ数を53名とする。				
6	昨年度は学則の収容定員増と南浦和キャンパスの開設があり、より一層の生徒募集への取り組みが必要な年度となった。定期的な生徒募集会議の実施や他キャンパスの学校訪問の助勤など、一丸となって取り組んだ結果が現れているように感じる。SNSの広報についても全校舎意識をもって取り組んだ結果であると感じる。今後も引き続き目標を達成できるよう取り組んでいきたい。	全教職員が協力して、地域の中学校・高等学校の教職員との連携の強化を図る。	訪問担当校(中高)を年2回以上すること		
	本校(通信制課程)理解促進のための中学校・高等学校等訪問の強化、訪問中学約150校とする。	訪問中学約150校とする。			
	学校行事・フェア・キャンパス行事等、様々な機会を通じて入学者が来校する機会を多く取り入れ、新入生願書の発行を60枚以上を下限とし、130枚以上する。また、2025年8月末までに75枚以上とする。	新入生願書の発行数130枚以上(2025年8月末までに75枚以上)			
	わせがく夢育生158名。	在籍生徒数158名			
7	HP・SNSの充実を図る。各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上とする。	各校舎のHP・SNSの更新を週1回以上			
	地域の方からゲストティーチャーを招き、地域の特色を学ぶ学習活動・協働作業の充実を図る。	地域の方々との学習活動・協働作業を年間2回以上			
7	学校行事や地域イベント等への相互参加を通じ、地域理解や交流を深める。	地域イベント参加等の地域交流を年間2回以上			

学 校 関 係 者 評 價	
実 施 日 令 和 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	